

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502496		
法人名	有限会社 時館		
事業所名	グループホーム あいある石山		
所在地	〒005-0842 札幌市南区石山2条4丁目1-50		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・開設以来、(夜間時は除く)玄関の施錠をしていない事。外に出たい時は、なるべく付き添い、一緒に出ている。 ・嗜好品の制限はあまり行っていない。入居者様には、少しでも以前の楽しみを継続してもらいたく(食前、食後の)お酒、タバコは自由になっています。 ・入居者一人一人の尊厳を保つと共に、職員一人一人の個性も活かす事ができやすい職場を目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2011\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0170502496-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502496-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階		
訪問調査日	平成	25年	1月 30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、複数の福祉事業を展開している運営法人が最初に開設したもので、9年目を迎えようとしています。職員は清潔に対する意識が高く、ホーム全体が整理整頓され清掃に配慮されています。敬老会では近隣の温泉で利用者、家族、職員が一堂に会し、親交を暖めています。調査日の昼食時では利用者から「この食事は朝食から栄養面を考えてくれて、とても美味しいの」との言葉がありました。地域の祭りでは、町内会長の配慮により、子供神輿の行列がホーム前の道路を通ることになり利用者が楽しみにしています。ホームは介護相談の受け入れや認知症サポーター養成講座の開催等でホームへの理解に繋げています。職員は無理をしないで穏やかに過ごせることを念頭に、編み物など利用者の持てる力の継続支援に努めています。ホームの課題に積極的に取り組む姿勢は、今後に期待できる「グループホーム あいある石山」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール内や、休憩室などの目に入る場所に掲示する事によって、常に意識し、又、朝礼時に職員が唱和する事により念頭においたケアの実現に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を含んだ運営法人理念に加え、清潔、笑顔、地域への貢献を主体としたホーム独自の介護理念を策定しています。ホーム内での掲示や毎朝のミーティングでの唱和等で理念を確認し、実践に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の新年会への参加や、町内会のゴミ拾いなどの清掃活動への参加。	町内会の新年会や清掃活動は職員が参加しています。地域の祭りが隣接する寺院の境内で行われ、利用者や家族、職員が盆踊り等で地域の方々との交流を楽しんでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民や、お電話にて問い合わせがあった時などの当ホームへの入居相談や、認知症サポーター養成講座の開催などにより、ご近所様への理解の向上に努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長様、民生委員様、又御家族様・地域包括支援センター職員様からなどのアドバイス・ご指摘を頂いた事は、普段のサービスに取り入れるようには努力をしている。	運営推進会議は、地域住民代表、地域包括支援センター職員、知見者、利用者、家族の方々をメンバーとして、年6回開催しています。参加者が少なく、内容もホームの活動報告が大半を占め、活発な意見交換には至っていません。	開催する意義を理解して頂き、家族や地域住民の方々への参加要請、全家族へ開催日の周知や議事録の配布、外部評価やホームの課題公表、リアルタイムな議題により会議の活性化に繋がる取り組みに期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談等がある場合は、迅速に札幌市や南区の担当者に現状を報告し、意見などがあった場合には、サービスに反映している。	行政とは管理者会議、ホームの課題相談、各種報告や認定時に情報や意見を交換し、ホームの質向上に活かしています。地域包括支援センターからの提案を受け、認知症サポーター養成講座を開催しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のマニュアルが整備化された事により、外部研修も含め、独自の事業所研修により職員への周知を図っている。また、今後も玄関の施錠を開放していくつもりで努力をしている。	身体拘束の防止についてはマニュアルを整備し、外部研修や勉強会で理解に努めています。職員のケアの在り方が適切で無いと判断した場合は、管理者が注意をしていますが、職員間に於いても注意し合える関係作りを課題としています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所のマニュアルが整備化された事により、外部研修も含め、独自の事業所研修により職員への周知を図っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や、事業所内研修によって、職員間で情報の共有に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には御家族・関係者様に対して、重要事項説明書など用い、ご理解いただけるように説明対応を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、使用頻度は少ない。御家族様からの意見は面会時・訪問時に管理者や職員が随時意見を頂いている。前回の評価時の課題である内容の記録が今後の課題でもある為、早急に進めたい。	個別のメッセージや介護についてのコラムを記載した毎月のホーム便りで利用者の日常を家族に伝えています。日々の関わりや家族来訪時で要望や意見を把握していますが、改善に向けての対応記録が十分ではありません。	ホームの質の確保に繋がる利用者、家族から日々のケアサービスへの意見や要望について、全職員で発生要因の解明や改善の経過、結果に至る記録の整備への取り組みに期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング、定例の管理者会議などにおいて職員の意見・提案を、運営に反映できるよう働きかけている。	年に2回、代表者と管理者による個人面談が行われています。管理者は、日常業務上や活動、食事、環境委員会に所属している職員から運営についての意見を傾聴し、課題内容によっては法人全体の管理者会議で協議しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度・キャリアパスの確立により、職員一人一人に合った就業環境を整い、労働意欲を喚起できるように定期的に考課を行い、待遇面での改善も試みている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や、随時面談を行い、職員個人個人の目標設定をし、サポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われる同一区内の計画作成担当者の勉強会への参加や、南区のグループホームの親睦会への参加により交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様の意見も伺いながら、不安材料を少しでも減らしていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時等において、現在困っている事、不安な事をお聞きし、今後の方向性に関して話し合う場面を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居以前の他サービス状況も考慮し、今後ホームで過ごすうえで、何が必要か、何が可能かを話し合う場面を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事、掃除、洗濯など共に行い、共有できる時間を過ごして、少しでもより信頼構築できる関係を心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、遠方の家族においては通信や電話などにおいて、積極的に悩み等を把握し、又、一方的にならないように職員からも現況報告などを行い相互の関係作りにも努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時やその後の生活の中において、以前の暮らしで使われていた馴染みのある物の使用を働きかけている。	友人、知人の来訪時には居室でゆっくりと寛いで頂いたり、年賀状や墓参り支援、受診の帰りに以前の居住地を訪ねるなど、利用以前の生活環境や馴染みの関係を尊重しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定時におけるティータイムでの利用者同士の交流や、アクティビティで共通の話題など通じ関わり合いを持てるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約後であっても、入院中の面会や、状況により集まりなどに参加させて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での言葉や、表情など、気持ちを汲み取りながら、ご本人の気持ちになって、職員間で情報を把握し、意向に添えるよう努めている。	職員は日常の関わりの中で、利用者が何を思い何を望んでいるのかを模索しながらケアサービスに取り組んでいます。困難な場合は、家族の情報や雰囲気から検討をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用いながら、ご家族様からの情報や、ご本人様からのお言葉を基に情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を用いながら、ご本人様の現況の把握や、情報の更新に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーや、計画作成担当者を中心として、カンファレンスにおいて介護計画の話し合いや、作成を行っている。	利用者にとって最適な生活支援になるよう、利用者や家族の要望を踏まえ、職員の意見が反映された介護計画を作成しています。介護計画は6ヵ月毎に評価をし、見直しをしています。	介護計画の目標に沿った記録の記載が十分ではありませんので、計画の確認に繋がる整備化への取り組みに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに沿った対応、また気になる事柄を詳細に記入できるよう心掛けている。また、カンファレンスにおいて、職員間で情報の共有、更新に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しい情報なども取り入れ、とらわれた姿勢ではなく臨機応変に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況によって支援を心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	外来受診や、訪問診療などご本人・ご家族の希望にもあるかかりつけ医に対応してもらっている。	利用者や家族が望む利用以前のかかりつけ医への受診は職員が同行しています。協力医療機関による月2回の往診や、緊急時には近隣の医療機関を受診するなど柔軟な対応に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の生活の中で気付いた変化等を、受診時や、出勤時に話し合っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中においては、相談員様と密に連絡を取り、利用者様の早期の回復・帰所に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在実績はないが、契約時においてその旨は説明しており、また職員がターミナルの研修を受けるなど、今後に取り組めるよう努めている。	契約時には利用者、家族に重篤時に於けるホームの指針を説明し、同意書を頂いています。看取りは経験していませんが、ホームで出来得る最大限の支援が出来るよう、さらなる知識や技術の習得に向けての取り組みを検討しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの活用、また研修や・勉強会を事業所内で開く事により、備えている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の地域住民への参加の促しや、マニュアルの把握により態勢を整えている。	年2回昼夜想定避難訓練を実施していますが、地域の方々の参加には至っていません。町内会長を含めた緊急連絡網や災害備蓄品を用意し、災害時に備えています。	ホームの実情を理解して頂き、地域の方々へ訓練参加要請、自然災害においての実戦的訓練、一時的室内避難場所の確保、避難経路確認等への取り組みに期待します。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声の大きさや、状況により個室対応する等、同じ対応にならないよう心掛けている。	「さん」付けでの呼び方や、排泄時にはタオルを掛けて羞恥心に配慮しています。入浴時は同性介助を基本とするなど、尊厳あるケアサービスに取り組んでいます。個人情報も適切に保管されています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る事を引き出し、せかすことなく時間をかけた対応を心掛けている。また、選択肢を常に何点か用意できるよう心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の体調や、利用者様の言葉から状況を理解し、その時の対応を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や、催し物時等、整容やお化粧品などに目配りをしている。また、起床時・離床時に整髪・整容を心掛けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の購入や、盛り付けなどで工夫をしている。また、下準備や、配膳・下膳、食器拭きや洗いなどを共に行なっている。	管理栄養士の献立を系列の事業所と共有し、食材も宅配されています。利用者の誕生日には、好みの食事を提供し全員で祝っています。おやつは職員と利用者が一緒に作り、会話を楽しみながら食卓を囲んでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の下、カロリー計算等を行い、各利用者毎に、量や、味付けに配慮をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	随時、口腔ケアを実施している。また訪問診療（歯科）の月2回の診察により、口腔状態の管理や、処置を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の利用者様の排泄パターンを把握して、誘導や声掛け、支援により自力排泄の実現を心掛けている。	利用者の排泄チェック表や動きからトイレへの声掛けや誘導支援を行っています。夜間時も日中と同じ支援に努め、失敗の軽減や最小限の衛生用品の使用に繋がっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調や個々のADLに合わせた運動など、未然の予防に心掛けている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現段階では、利用者の入浴日が決まっているが、ご本人様からの希望があれば随時調整している。また、入浴剤を変えたりなどの工夫も行っている。	毎日入浴出来る態勢を整えています。入浴日は利用者の要望を尊重していますが、午後から週2回以上の入浴支援を行っています。ストーブで脱衣場を暖めたり、シャワー浴の時は足浴も同時に行うなどの配慮があります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時刻は設定しておらず、その日の気分や体調に合わせた声掛けの実践や促しを行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の受診ノート・薬剤情報提供書の活用や、毎日のバイタル管理などにより、服薬状況での症状の変化の観察に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合った催し物の開催や、ドライブ・外食など、またホーム内の装飾など利用者様主体となっで行なっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によっても変動はあるが、散歩や買い物などで対応しており、またご家族様と馴染みの美容院などに行ってもらえるよう、職員からの勧めも行なっている。	利用者の体調や天候に応じて周辺の散歩や買い物支援を行なっています。また、家族と馴染みの美容室へ行ったり、四季折々の外出行事を企画し、家族の支援や参加も頂きながら五感刺激や充実感に繋げています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆ど、ホームの金庫管理だが希望があれば一部お渡しして自動販売機で購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、その都度ご家族様などには取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除や、トイレに関してはこまめに清掃を行い、快適に使用してもらえるように常に保清を心掛けている。また、廊下や、居間には利用者様とともに作成した装飾品などを展示している。	共用空間は採光や温度、清掃に配慮しています。居間には手作りカレンダーやホーム便り、利用者の作品が掲示されています。窓辺に置かれている多種多様な観葉植物が冬景色に映え、穏やかな雰囲気を出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様ごとの座席や、各場面によって座席の配置変換を行っている。また、声掛けにより配慮などもしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の段階でご家族様・ご本人様には、家具などに関しては馴染みの物の配置や使い慣れた物の勧めを行っている。それにより以前と変わらない生活の実現を目指している。	クローゼットが設置されている居室は、ゆとりある広さになっています。馴染みの家具や調度品は利用者と家族が配置を考え、さらに、ベットや布団など利用者の生活習慣を尊重しています。利用者一人ひとりが過ごしやすい環境になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りの設置や、居間の椅子、食器などに個々に合わせた調整を行っている。		